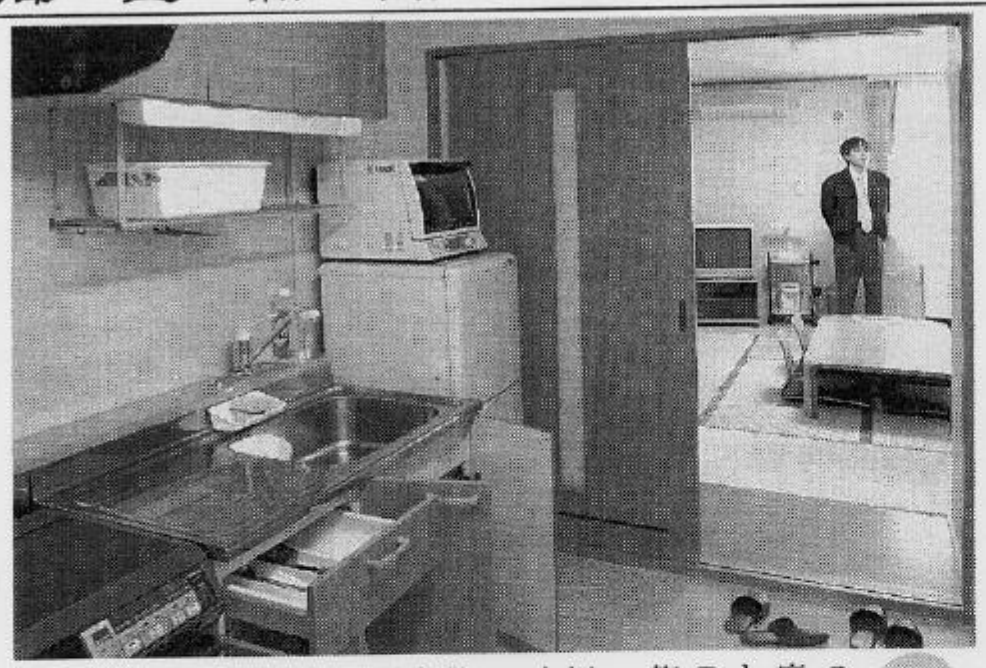
入院患者の家族宿泊

ファミリーハウスの現状は

道内施設 運営厳しく

遠くから入院する病気の子供らに付き添う家族が、低料金で宿泊できるファミリーハウス。総務省道管区行政評価局は二月、北大病院ファミリーハウス（札幌市北区）の利用料が、道外の公立病院の同様の施設に比べて割高として、見直しを申し入れた。同病院は「軽減する方向で検討中」（総務課）という。ファミリーハウスの現状を探った。

（岩本　進）



民間はボランティア

北大、値下げの方向で検討

北大病院ファミリーハウスの宿泊室（和室）。調理器や食器も完備。すぐに生活できるようになっている

北大病院のファミリーハウスは徒歩五分の北大構内に建つ。鉄骨二階建て。病院の病棟が間近に見える。北電と北電労組が寄贈し、二〇〇二年四月にオープンした施設だ。

宿泊室は八つ。十六平方㍍の部屋と台所、風呂、トイレのほか、テレビ、エアコン、冷蔵庫、調理器、食器も完備し、一室一泊二千円。一回の申し込みで最長二週間泊まれる。

国などの行政に対する苦情を受ける行政評価局は、道内の女性から「他県の公立病院で一泊千円程度のところがある。北大はもっと安くできないか」という申し立てを受け、調査。「安くできる余地がある」として見直しを求めた。

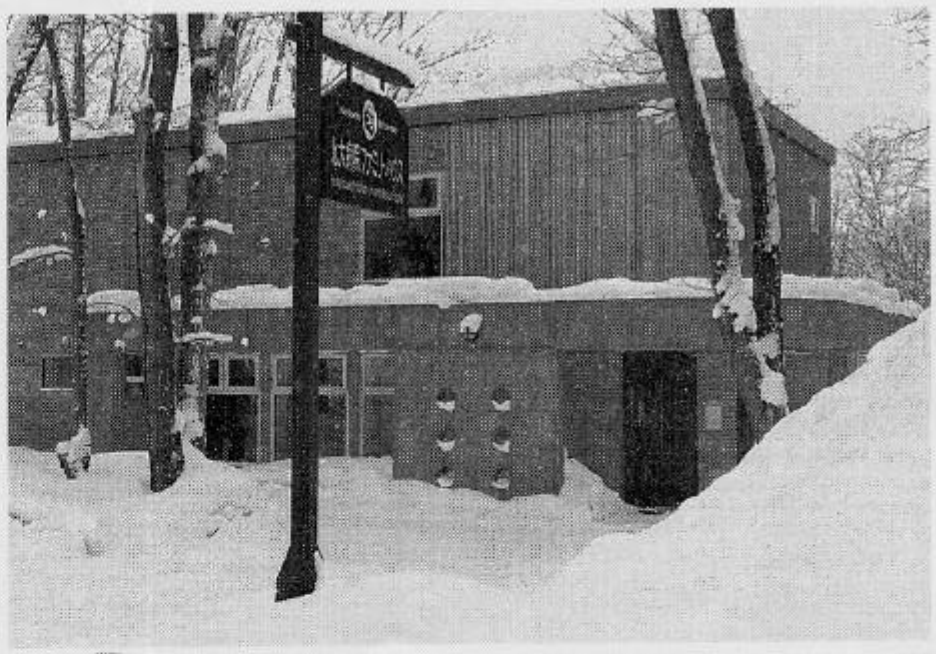
同病院の場合、光熱費、水道料のほかに施設使用料などを算出して利用料を決めたという。

これに対し、評価局は、国がかつて行ったファミリーハウス整備補助事業が「目的は経済的負担の軽減」「徴収は光熱・水道料などの実費程度」としていたことに注目。「この考えを援用すれば安くできる」と指摘した。

京の特定非営利活動法人（NPO法人）「ファミリーハウス」によると、ファミリーハウスは全国に六十五団体八十八施設、うち道内に七団体七施設。利用料はさまざまだという。

今回、比較された道外の公立病院の考えはこうだ。群馬県立小児医療センター（一室一泊八百五十円）は「光熱費、水道料、消耗品、委託清掃の実費分だけ。家族の経済的負担への配慮です」。東京都立清瀬小児病院（同千円）は「患者サービスの一環。施設だけの収支をみれば赤字です」。

道内ではボランティア団体、北海道ファミリーハウス（札幌）に、札幌市内など二十五の民間宿泊施設が登録されている。主にアパートやマンションの持ち主が提供した部屋だ。一泊千一



病院から近い北大構内に建つファミリーハウス

二千五百円程度。

「利用料は各オーナーが決めている。毎日利用者がいるわけではないので、ボランティア活動になっています」と、金田耕二事務局長は説明する。

前出のNPO法人「ファミリーハウス」が東京都内で運営する八施設は一人一泊千円。寄付や会員の会費などで低料金を維持しているものの、「運営は決して楽ではない」のが実情という。

利用する側はどうか。全国心臓病の子供を守る会道支部（札幌）の百貫かおる支部長は「遠くから来る家族にとっては安いほど助かる」としたうえで、「心が安らいで落ち着き、他人に気を使わなくて済むような宿泊環境が整っていることも大切です」と精神面への配慮も強調する。病気の子供を持つ家族は不安を抱えているからだ。

北大病院によると、ファミリーハウスの宿泊室稼働率は90％を超え、満室で利用できない日も多い。

「一カ月で六万円。高いと思う人がいるかもしれない」との声がある一方、同じ敷地内にあるため、夜遅くまで付き添える安心感や、外出許可が出たら一緒に寝泊まりできる利点もあるという。

行政評価局の申し入れに強制力はないが、北大病院は見直しを検討しており、三月中旬までに結論を出す。

北大と同じく、北電から同規模の施設の寄贈を受けた札医大病院ファミリーハウス（札幌市中央区）も、現在の一室一泊二千円の利用料について「北大の結論をみて検討したい」とする。

◇

道内のファミリーハウスの情報は、北海道ファミリーハウスのホームページ（http://www3.snowman.ne.jp/~h-family/）に詳しい。事務局は☎011・716・4161（平日の午前十時―午後四時）。